主婦会長の退任に際して

長い間の援助に感謝

もう一度想い起しましょう 主婦会運動の〝原点〟を

鷺分会　久保時江

去る七月二十八日、三池主婦会第二十一回の定期大会に於て九月に主人の停年を迎えることを機会に、会長を退かしていただきました。

思い返して見ますと、昭和三十一年から四十九年の主人の停年退職までの十五年間の役員生活を主婦会と共にすごして参りました。

私が最初に役員をひき受けた時は、三十五歳という若さでした。幸せを、豊かな生活を、平和を求めて歩きはじめて十五年。悲しかったこと、苦しかったこと、みんなで話し合い、みんなで学び、みんなで進めた闘いの数かず。とても永く、そして短かった十五年です。

激動する石炭産業のなかで、三池主婦会は、昨年創立二十周年を迎えました。会社の不法、不当きわまる弾圧を受けながら、一人ひとりが、労働者は如何にあるべきか、を問われるなかで、家庭の平和と幸せを創造していくにはどんな妨害があろうとも、労働組合に協力する以外にないと決意し、炭婦協結成を心から喜んだ私でした。

当時は会員も多く、地域のなかも大変活気があり、役員をする足どりも軽く、たのしいものでした。私たちの運動は、まず生活に対する物の見方を正しくしていこうということで、組合と共にとりくんだ生活革命運動でした。給料の一日ねかせ運動。家計簿記入活動。年末年始の虚礼廃止。家族会議など、生活の中身を見通して計画を立て、考える主婦に変革することを目標にしたものでした。

三十五年の三池闘争では一万円生活にたえぬいて闘い、就労後は、会社の不当な差別政策と弾圧に対し闘いました。政府の石炭産業合理化の攻撃の中で、三池闘争の事態収拾の後、徹底した差別。組織破壊を計りながら、保安無視の生産第一主義の合理化を強行。ついに三十八年十一月九日の三川鉱炭じん爆発をひき起し、四百五十八名の生命を奪い、八百三十九名にも及ぶCO中毒患者がつくり出された悲しみと怒り。これが生涯忘れることのできないものとなりました。

合理化は次の合理化をよび、ついには労働者の生命まで奪うものであることを、これ程残酷な事実をもって表したものはありませんCO闘争に於て、主婦たちは坑底での百四十四時間にわたる座りこみを断行。労働省前でのハンストと並行して世論を巻き起し、CO特別法の制定を闘い取ったあの一瞬のよろこびは、闘ったものでなければ、とても味あうことのできなかったものです。その一つひとつが苦しいたたかいの連ぞくでした。もしこの苦しい闘いがなかったら、そして生活革命運動がなかったら、私達が人間らしく生きることもできなかったでしょう。未来を大きく見つめることもできなかったでしょう。

といって見ましても、今日の主婦会活動が十分とはいえません。炭鉱労働者のおかれている状況が、きびしければきびしい程、私たちの活動もまたきびしさが加わって来るものです。

主婦会とは何か。私たちの婦人運動が、いろんな意味で問いかえされている時期だと思います。

困難をくり返し、生活とのたたかいを通じて私たちは成長したのです、また争いの歴史のなかできたえられて人間となり美しくなったのです。

私たちが目指した婦人解放の運動と反合理化闘争の正しさが、一九六四年に三池に学ぶ全国集会の開始となり、大きく芽を伸ばし、今年十一回を迎えたものです。

又、主婦会創立二十周年記念の年を迎えるに当り、三池に学ぶ婦人集会が開催されました。多くの主婦仲間の皆さんと知り合い、語り合うことの誇り、人間と人間の心のふれ合いが、どんなに尊いものかを学びました。未来を見つめるこの芽ばえが、三池の労働者と家族に、どれ程大きな勇気と自信をあたえてくださった事でしょう。

私も久しぶりに一人の主婦の座にもどって見ました。地域のなかでは、沢山の問題がありますけど、生活革命運動の原点をもう一度想い起し、地域に根ざした闘いの必要性をひときわ考えさせられる昨今です。

今回役員を退かしていただくにあたり、永年御指導・御協力下さいました組合員や主婦会家族の皆さんに心からお礼を申し上げまして退任の御挨拶と致します。

常に主婦会運動の先頭に立ち、闘つてきた久保元三池主婦会長（左の人）

安見

結婚生活十五年余りにもなるのにまだ一度も主人の名前を呼んだことがない私です。

お父さん・・・アナタ・・・などいった事がありません。用がある時は、大牟田弁丸出しの「あんネー」を代名詞に、単刀直入話をしますので、名前やもろもろの名称を使わないことによって、不自由を感じた事はありません。

さすがに子どもに対しては、「お父さんに相談したら」、なんてことはいいます。どうしてそうなったか、は定かではないのです。

主人はどう思っているのか、何とも申しません。反対に、私の事を呼ぶ時は「オイ」と来たもんです。いずこも同じ呼び方だとは思いますが、その発声たるや男らしく（？）勇しく、ケンカでもあっているのではないかと、他人様は思われる事でしょう。

勇ましいのは呼び声だけでなく体格にまで現われており、真冬でもその皮膚は赤銅色に輝いています。色素の遺伝により子どもまで色黒で、男の子で良かったと思う程です。島倉千代子の歌う新炭坑節の歌詞に「色の黒いのになおほれた」とありますが、まさにその通りです。四十をもう何年か前に過ぎて、頭には白いものがずい分と見られる様になったのに、気持だけは若く、万年青年を気どっております。

もう子供から背丈も追越され時代も取って替わられる年令になりつつあるのに、うちの万年青年は「まだまだこれから」と、三本線をしめなおしては張り切っております。

こんな事を私が書いたと知ったら主人は苦笑しながら「バーカが」と一言いう事でしょう。

×

郵便で寄せていただいたもので、筆名はまったく不詳でしたから、そのまま紹介しました。

こうして積極的に、この欄に寄せていただくことのうれしさは、何にもかえられません。お名まえをご連絡くださいましたら、心ばかりの謝礼を用意しています。ご遠慮なくお申し出くださいますように。

編集部

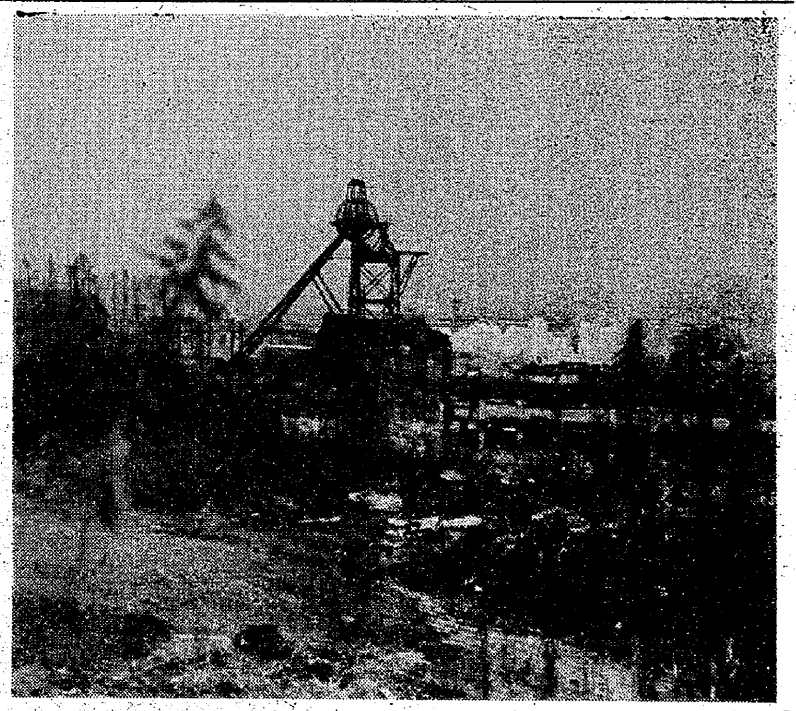
私の大事な人

呼び名は「あんネー」

筆名不詳

秋は急ピッチ

昨日まで暑い暑いといつていたのに、早くも上衣がいるようになつた。廃坑のやぐらが、秋風のなかに立つている。そこにやつてくる台風――物価値上げ攻勢。きびしい秋になりそうだ。



家庭

あせらずじっくり

治すコツ　子どもの夏休みぼけ

子どもの夏休みぼけを治しましょう。九、十月ごろまでは子どもにとって調子の出ない日が多いのです。かなり自由にかけずり回っていた夏休みの生活から学校という規則のある生活にもどるのはたいへん。

読書の好きな子は本ばかり読んでいます。体育の好きな子はどうも教室の中でじっとしにくいといったぐあい。夜もおそくまでテレビを見ていて、朝寝坊してしまう子が多いようです。

なおすコツはあせらずじっくりと。むしろ、夏休み中に見つけた子どもの個性を引きがねに、全体的にぐんと伸ばしてあげたいものです。

例えば、旅行好きの子はもう一度夏休みに歩いたところを地図で調べ、ノートに書かせてみます。列車の時刻表を使っての経済的な旅行計画、時間的に一番早い方法その地方の産物、起こっている問題、歴史的な事件などを調べていけば、自然に地理、社会、歴史などを勉強していくことになります。

また、テレビの好きな子はテレビの番組の感想を文にしたり絵や話にするのもよいでしょう。野球の歴史、プロ野球のしくみ、野球記事などのスクラップのしかたなどを教えてあげましょう。

もちろん学校の先生との協力が必要です。

【連合】

消費者米価上げるな

インフレ共闘が申し入れ

【連合】「インフレ阻止国民共闘」は九月二日、東京・全日通会館で「消費者米価・公共料金値上げ反対代表者集会」を開き、消費者米価・公共料金値上げ反対の「緊急決議」を採択、農林省、経済企画庁などに申し入れを行った。

集会には生協連、公団自治協のほか婦人団体など三十五団体約九十人が参加。採択された「緊急決議」は、

①食管制度を忠実に守り、消費者米価は上げるな。必要財政は国が負担せよ。

②米に、物価統制令を全面適用せよ。

などのほか、国鉄運賃据えおき、灯油の引き下げを要求している。

さあ闘いの秋

物価値上げ攻勢のなかで、総評の秋の闘いがいよいよすべり出しました。

十五日の高令者集会が皮切りになり、各組合が闘争にはいりました。二十日前後には、〝七五春闘共闘委員会〟が早くも発足です。がんばりましょう。

原子力船むつ

時のことば

日本最初の原子力船。一万四百総トン。核潜水艦と同じ加圧軽水冷却型、熱出力三万六千キロワットの原子炉を積み、二・八トンの核燃料で地球を六周半できる性能を持っています。

日本原子力船開発事業団が開発石川島播磨重工業が建造し青森県むつ市を母港にしていますが、安全性に疑問を持たれて約一年半、試運転ができずにいました。ホタテ貝などの放射能汚染を恐れる漁民の強い抗議を無視して行われた今回の洋上実験で、早くも放射線もれの事故を起こしています。

【連合】